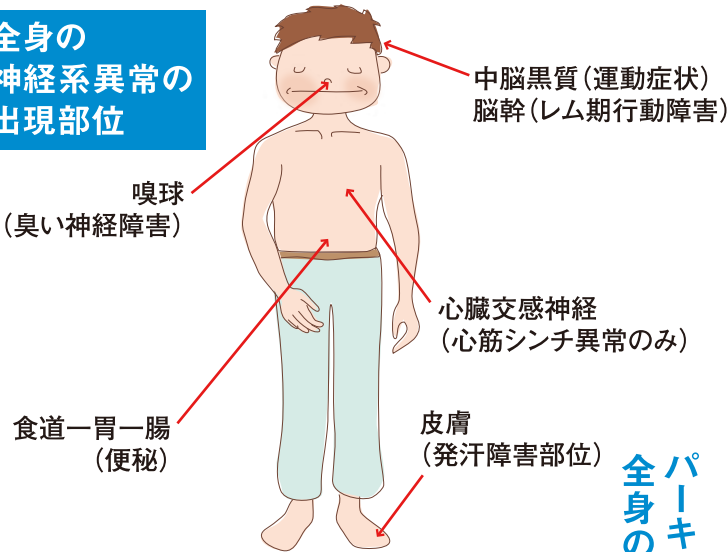


パーキンソン病の話:いろいろ

全身の 神経系異常の 出現部位



パーキンソン病は 全身の神経系の病気

パーキンソン病は、脳に変化が起って生じる運動障害を主とする病気で、しかし、最近になり、脳に生じると同じような変化が全身のあらゆる部位に生じることが分かってきました。

図は、脳以外にも変化が起きる場所を示しています。現在では、最初に全身のいろいろな部位に変化が生じ、その後、脳の変化が起きると理解されています。始まりの症状は運動症状ではないので「非運動症状」と呼ばれます。多くの非運動症状の中で「うつ」、「嗅覚障害」、「便秘」、「レム期行動障害」は、パーキンソン病の運動症状の発現に先行して出現する症状として専門医の間ではよく知られています。

しかし、これらの症状が全てではありません。例えば、臭いの感覚が鈍い患者の頻度は高いものですが、風邪引きなどでも臭いの感覚は障害されます。そのため、一般の人が臭いが鈍いというだけでパーキンソン病だとは言えません。

パーキンソン病は、運動障害が主の病気です。「震え」、「筋固縮」、「無動」のうち2つ以上がなければ、パーキンソン病との診断は不可能であることを知っておかなければなりません。

病気の始めから▽転びやすい▽足が前に出ない(すくみ足)▽という症状がある場合は、パーキンソン病以外をまず考えます。